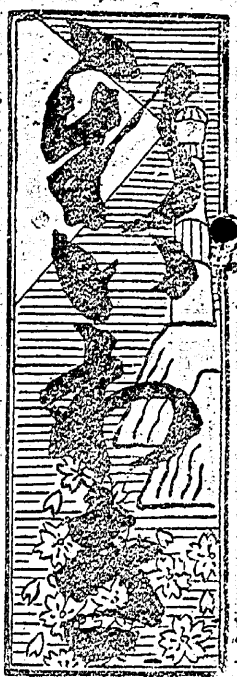
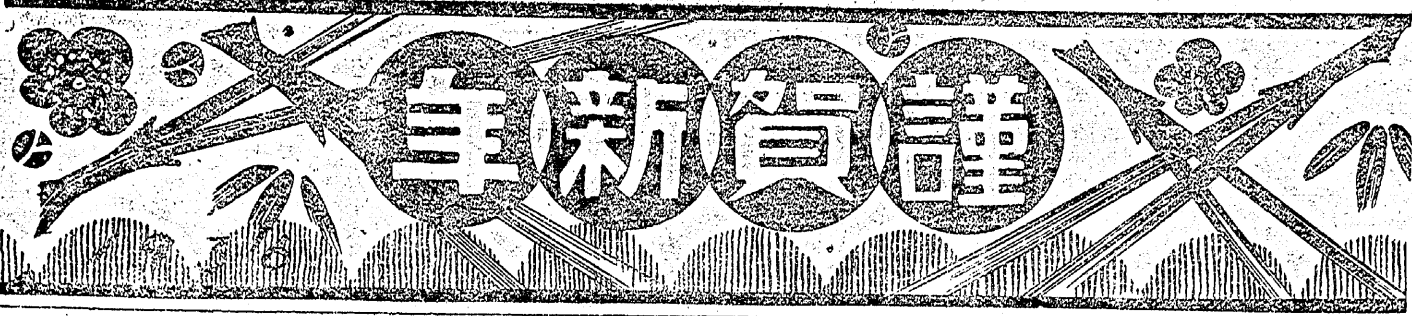


二十三年一月一日



日刊世... 郵税十五... 印刷部... 發行所... 石城郡飯野村

迎年の辭

皇威八紘に輝く昭和十一年を迎へ謹みて聖壽の萬歳をことほぎ奉り併せて邦家の萬福を祈る... 願みれば昭和十年は内外共に忙忙の裡に終始した、外に其の近き上ぐれば對露並に北支の問題、滿州北鐵の買収成れりと雖も尚ほ未だ一切の禍根を掃蕩されたと云ふを能はず我れを圍む露支の攻守同盟は北支の獨立を差挟み更に列強を背景に關する支那の對日關係は整調するかの如くにして不整調に引摺られ、海軍々縮會議は相手國の巧言飾辭、鳥驚炭雪の弄語に終つて之また得る所なし、内には關西及び東北に天災相次ぎ、殊には國民思想上の一大恨事とされたる國体明徴問題等々、一九三五年の危機來は幾多豫期せざるものにも小ならざるものがあつた、乍去國際的の諸情勢は邦家の存在に微動も及ぼすなくして愈高き天災の慘禍は着々と復舊に曙光し國体明徴問題また漸く過去のものたらんとしてゐる

財界不況の中にも 施設經營着々進展

年頭言 青沼平町長

坤輿一轉して萬象新に、皇和を脅威するものと建艦競紀貳千五百九十六年の新春を唱へ、世界平和に寄與すべき諸機構を以て歐米列強の勢力擁護の利用手段とせる結果として、獨逸の一方的條約破棄の聲明、伊太利のエチオピア國侵略強行の如きは其の片鱗を露したものと云ふべきであります。極東に於ける日支親善外交は親日轉向より直に經濟提携の氣運に向ひたりとは申せども日本の眞意付度には苦しむ支那は公使館昇格を契機として逆轉し、英、米の策動に依る貨幣制度の改革北支政權の出現により排日運動と有り舊臘上海に於ける學生の掛日運動は戒嚴令を布く如き益々鋭化するの感あるは帝國の前途更に幾多の荆棘横はるものあるを思はしむ又舊臘十二月九日以來倫敦に開會したる海軍々縮會議に於ける我全權の正々堂々たる提案は支那幣制改革工作と華府條約廢棄等に關聯し北支政權の展開に伴ひ日英米の對立は愈深刻化し暗雲低垂山雨將に來らむと未だ逆轉すべからざるに於てあります又之の内には國體明徴運動の擡頭國防財政の調和産業發展の對策、東北振興對策其他内外外交上更に重要な問題に直面いたし國事を極めて多難の秋であります。併せて現下に於ける經濟界の情勢は重工業が地方的に刺戟を與へ國內的恐慌對策時局局救事業に依り地方産業の自力更生を促しましたるが由來天惠最も著き我東北地方は打撃く冷害に依る凶作のため農村の疲弊困憊想像の外でありました其結果購買力の減少は延て市街地中小商工業者の營業不振を見るに至り然るの歸結であります而して東北振興の課題は多年其解決を叫びつゝありましたが漸く東北振興調査會を設置せられ計畫の實現を見るに至るべく我々は一も速かに其實行を待望するものであります。爾つて我各町は發町精神に燃ゆる町民各位發達の下に打撃く財界の不況に處し克く協力一致共存共榮の實を挙げ各級の施設經營着々進展を見るに至りまして納稅義務觀念の發達警備衛生思想の普及向上年毎に良好なるを認むるが如き又土木交通の事業は第六國道五町目紺屋町の舗裝を終り夏井川改修工事亦進捗いたし既に鐵田町を終り上流半窪村地内に及び更に之れが付帯事業たる新川、古川の大改修は多年の懸案でありましたが平三萬町民の熱烈なる希望と内務省及縣當局の配慮に依り之が工事

謹賀新年 印刷部 大庭義樹 外一同 編輯部 牛谷政喜 外一同 新しい新聞社

す。然るに人口三万以上を必要條件としてありませる現在の平町は其數に達せざるがため隣接村に對し合併交渉を進めて居りますから暫く此の経過を待つことと程度であります。が町民の自覺と調査機關の活動とに依り具體的運動を繼續いたし所期の目的を達するの覺悟であります。教育に關する設備は前年來懸案たる第三小學校敷地擴張及第四小學校町營グラウンドの敷地買収も地主諸君の公共的誠意に依り順調に進捗し公會堂の建築も亦昭和十一年度實現を見るに至らんとし又商業學校は年を経るに従ひ入學志望者の數を増し臨昌の機運に向ひつゝあるは誠に悦に堪へざる次第であります。然るに現在の校舍は形勢既に三十有餘年を経過し改築の時機に迫り補強工事を施すも耐久の見込なきを以て町會議員より委員を擧げて之が調査進行中でありませうから具體的成案を得るも遠きにあらざるべしと信じます。又多年地方民の熱望したる平小鐵道の工事は愈々一年度より着手せられ豫定年度に完成を見ることと存じます誠に悦ばしき次第であります。而して又昨年秋季に行はれました縣會議員選舉に際しましては選舉公正を強調し有権者の自覺を促し其効果の著しきものとありましたとは國家のため誠に悦に堪へざる所でありませう。又今春行はるべき衆議院總選舉に際しては亦た正しき選舉は立憲政治の根幹社會浄化の源でありまして吾等の貴重なる選舉權は皇運を扶翼し奉る忠君愛國の大道たるを以て自覺し赤心を捧げて選舉公正の目的を達せんことを切望するものであります。叙上の如く我平町は町政諸般に亘り逐年施設の多きを加ふると共に此の重大なる時局に鑑み時勢の進退に伴ひ益々地方自治の機能を發揮し夙夜精勵一層の努力を拂ひ進んで帝國の隆昌と本町の發展を圖り以て優渥なる聖恩の万一に報ひ奉らんことを企願して已まぬものであります。以上聊か蕪言を陳べて新年の祝辭といたします。

謹賀新年 石城郡産産組合長 勳四等 安島重三郎 石城郡山田村 鈴木榮 石城郡小名濱町 鈴木喜太郎 石城郡高久村 伊藤淺之助 石城郡飯野村 花の井 一元造 大平睦四郎 石城郡勿來町 電話五七番 磐城平町 料理屋組合 磐城平町 藝妓屋組合 木炭問屋 移出問屋 草野米店 商

### 景気は年賀状から 受着共に激増する

#### お目出度うの年末勘定 受着着で實に百六十萬通

平郵便局に於ける賀状の特別日配達されるもののみでも實に取扱は受着共に増加を示し愈に卅二萬四千通に達してゐる。其の最終日である極月廿九日から昨年末にかけての繁忙は百五名(平常は四十五名)の總動員に機内天幕張の炊場場と救護班を置く不眠不休の活動宛ら戦場の如く景気は賀状からの吉兆を抱えて年を越した其の数字は左記の如く今一

### 面目を改めたる 平町の財政事況

#### 數年前に比較し隔世の觀

平町に於ける財政上の處理は近年頗る面目を改めて數年前に比較せば確かに隔世の觀と云つてよい町自治体にも最も苦痛とされるものは同方面で殊に不景氣の影響に輪をかけて一般民に於ける納税感念の退乏は赤字に赤字を重ねて去昭和七年の越年に學校職員賞與金半額渡をなしたるは未だ古くない事實であつたが昨年末の町税帳尻を見るに



### 年頭の感

大森 勇

永遠の昔、山川の形未だ整はざりし頃、生命の源がこの世に生れ出た。大自然が宇宙の中心に座を占めて、幾億萬年の思索の後、幾千萬年の準備を経て造り上げたもので、彼の傑作の一つである。地球が冷たい空間の中で太陽の週回を廻轉し乍らその完成を急ぎつゝある間に、生命の源は大なる見えない手に導かれて

### 町政に對する 一・二の念願

一・二の念願

用すべきものでもなからうと思ふ、三學校中心主義論も極頭して來てゐるのである。最後に本町の町債に就いて一言する、歳出公債費七萬餘圓

六五五五五 廿七日二七三〇 同日一九九四四増  
廿八日の御用終えに至り其の日までの仕掛ひを濟まして實に二萬圓の現金を持つて年を越してゐる此の成績は其の日共の日の收支關係が立所に



### 平町主催の 新年宴會

今日聚樂館で七百名の出席  
平町主催の新年宴會は恒例の如く今日午前十一時から同町聚樂館に於て開演青沼町長の式辭の後萬才三唱終つて

### 平驛收入十一月で 前年の收入を超過

#### 十二月迄に一割増収確實

平驛本年の旅客貨物收入は一月から十一月迄に於て客收入二八萬一千四百六十三圓貨物收入十萬三千八百七十七圓計卅八萬五千二百四十圓で昨年同期に比し三萬八千四百十圓

| 日      | 最高温度 |      | 最低温度 |      |
|--------|------|------|------|------|
|        | 攝氏   | 華氏   | 攝氏   | 華氏   |
| 12月19日 | 1.8  | 5.7  | -2.5 | 3.3  |
| 本年     | 4.5  | 9.3  | -0.7 | 31.7 |
| 12月20日 | 1.7  | 9.1  | -2.2 | 28.0 |
| 本年     | 4.0  | 10.1 | -0.7 | 31.3 |
| 12月21日 | 3.3  | 11.1 | -3.1 | 24.4 |
| 本年     | 4.1  | 9.0  | -1.2 | 29.8 |
| 12月22日 | 1.7  | 3.7  | -1.6 | 7.1  |
| 本年     | 4.4  | 11.9 | -0.7 | 31.7 |
| 12月23日 | 1.8  | 8.2  | -3.4 | 24.1 |
| 本年     | 3.6  | 13.3 | -1.0 | 31.9 |
| 12月24日 | 2.3  | 10.3 | -3.3 | 24.1 |
| 本年     | 3.1  | 12.2 | -1.6 | 29.1 |
| 12月25日 | 3.4  | 9.2  | -1.5 | 7.1  |
| 本年     | 4.1  | 7.8  | -1.1 | 31.1 |

### 事故防止委員 會の新年宴會

平驛では元旦及び明日二日の兩日共に午後五時から平町谷口樓に於て事故防止委員會を開き何れも午後七時から新年宴會を兼ねて縣全員の懇親會を催すと



### 郷倉の貯穀式

石城郡高久村では豫ねて建設中の郷倉を昨年末に竣功したので十年産米の貯穀式を行つた



### 美術會の 諸ひ初め

五日鐵道クラブで  
美術會の諸ひ初めは五日鐵道クラブで

## 恭賀新年

石城郡勿來町 郵便局長 赤津 一

砂利採取部 平驛前

砂利販賣部 神谷商會

砂利運輸部 神谷兼次郎

製問屋 吉村安次郎

卸問屋 阿部瀧藏

醫院 院長 飯塚榮一郎

小名濱町 飯塚榮一郎

美術會 吉田紋店

石城郡 石川徳壽

湯本町 三三三屋肉店

平町田町 齊藤敏實

木村病院 青木清太郎

石城郡 新妻盛

四倉町 立花種久

石城郡 青沼鋒太郎

平町長 青沼鋒太郎

平消防組幹部

福島縣木炭檢査所平支所長 立花種久

平町長 青沼鋒太郎

平消防組幹部

平町長 青沼鋒太郎

平消防組幹部

町政に對する

一・二の念願

多田井生

議會開會後頭前内相は臨時町村財政補給金法案を提案する様である、全案第一條に依れば財政窮乏せる町村の財源を補給する爲に國庫は當分の間毎年二千萬圓を支出すとあるから地方町村の負擔減輕の目的も多分に加味してゐるのではなからうか、現行市町村義務教育費國庫負擔金(昭和十年度九千四百萬圓、昭和十一年度九千九百萬圓)の如き亦その内容を吟味すると矢張り地方財政の窮乏を救助するの目的を併有してゐるのである、そこで私は本町財政を研討して見たいと思ふ、

Table with financial data: 拾年度(當初)平均概算概況, 財産より収入, 使用料及手数料, 町税, 國庫補助金, 縣補助, 其他, 歲入計, 學校費, 役場費, 水道費, 衛生費, 勸業費, 警備費, 公債費, 補助費, 土木關係費, 其他, 歲出(臨時共)計, 右表は粗雑極まるもので十分町村の内容を研究するに於て...



用すべきものでもなからうと思ふ、三學校中心主義論も頭して來てゐるのである、最後に本町の町債に就いて一言する、歳出公債費七萬圓の計上になつてゐるが元金五萬二千圓、利息七千圓、計七萬二千圓、特別戸數の大部分であるから容易でなく、借金と言ふものゝ味を解せない人は一驚するであらう、更に町債約五十萬と書いてある、私は茲で青沼町長さんに叱責を受けるのを覺悟で借金の披露をしてみる、即ち第一期、第二期水道事業費公債約三十餘萬、小學校建築公債約九萬、河川改修費、匡救工事費約一萬等々であつて水道事業費がその大部分である、然らば水道事業がどんな結果になつてゐるかを吟味し

屠蘇嬉言

滿壽莊主人

新年おめでたう御座居ます枕邊にあけかゝる夜や嫁が嫁が君は原の事だ恰度今年の子に支にあたりますこの明けかゝる新年の始めに何が希望されるかと云ふとそれは色々あるでせうが舊年より引續いた軍需インフレが軍需方面のみでなく一般的に普遍することでありませう鼠は小動物の癖に繁殖力の強い奴で月々十二匹つゝ子を産むと申しますむかしの本にこんな事が書いてあります

この鼠の父母あり正月に子供を十二匹生めば親子共に十四匹となり二月には親子も各十二匹つゝ生めば共に九十八匹となる此の如くして月々親も子も孫も會孫も十二匹つゝ生むるとすれば十二月間には二百七十六億八千四百五十七萬四千四百四十二匹となる也何と驚くべき繁殖力ではあるませぬかしきまきまこれほどでもありませんまいかとに角物の殖え方の早い事は原算と云ふ位ですから夥たしい

恭賀新禧

- 衆議院議員 比佐昌平
衆議院議員 鈴木辰三郎
衆議院議員 佐藤庄太郎
衆議院議員 野崎滿藏
縣會議員 關内正一
縣會議員 小松章
支所長 松本己之次
支所長 吉田勝彦
支所長 丹木忠義
支所長 鈴木榮一
支所長 和泉田友江
支所長 根本清吉
支所長 遠藤茂助
支所長 二本瓶勇次
支所長 遠藤今朝信
支所長 早川朝信
支所長 鈴木良平

謹賀新年 (所支平所査檢物穀縣島福)
石城郡 新妻盛
四倉町 立花種久
平町長 青沼鋒太郎
平消防組幹部
組頭 井上茂作
副組頭 關内正一
庶務部長 鈴木長三郎
會計部長 堀江正茂
第一部長 酒井清
第二部長 岡田政次郎
第三部長 鈴木彌太郎
小頭 三井富吉
高根澤長太郎
佐川三良
田中宣治
小 林 清 吉
福島縣平土 木監督所長

平町會議員有志
井上茂 茂松
高橋亀次郎
多田井笑次郎
根本品藏
佐々木龍若
關内正一
鈴木光吉
有煙無煙石炭 木材販賣業
高橋龜松商店
石城郡 銀行組合

石城郡 新妻盛
四倉町 立花種久
福島縣木炭檢査所支所支所長
平町長 青沼鋒太郎
平消防組幹部
組頭 井上茂作
副組頭 關内正一
庶務部長 鈴木長三郎
會計部長 堀江正茂
第一部長 酒井清
第二部長 岡田政次郎
第三部長 鈴木彌太郎
小頭 三井富吉
高根澤長太郎
佐川三良
田中宣治
小 林 清 吉
福島縣平土 木監督所長

### 子年を迎へて

#### 鼠に因む愚作

##### 泥ネツミのたわ言

**丙子** して子年に因む鼠のお話、大して面白い種もござりませぬが先づ丙(ひのえ)から申上げれば「ひのえ」は十干の甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の第三番目の文字でありまして此の、

**十干** の遠い起りは天の五行「木火土金水」に割當てられてゐる所から来たものと云はれて居ります、即ち木の兄木の弟、火の兄火の弟、土の兄土の弟、金の兄金の弟、水の兄水の弟と云ふ五つの兄と五つの弟とが其の稱源だと傳へられ俗に「えご」と呼びますのは「兄弟」を左様に略稱したものをなすのであります、其の大本は往古印度から支那へ、支那から日本へ這入つたもの往昔人智の未だ開けざる時代に於きまして地の五行説と相まじり宇宙間の、

**萬物** を解釋する根本となつてゐたものであります。居ります。そこで此の兄に屬するものを陽となし剛となし、弟に屬するものを陰となし柔となし陰陽剛柔が相和して萬物生ずると云ふ意味から之れを歲月日時等にまで割當てられたものと云はれて居ります、次へで、

**十一** 支と云ひますものは漢書の律書によれば「十二」と書いてあるが何れにしても矢張り此の説も遠く印度から傳来たもの

天には無くてならぬ附物とされてゐる、その、

**大黒** 様は一般に大國の神として辛棒の強さがある、此の三拍子共々日本民族に似た所が多い様であります、子年を迎へての本年の私共は鼠に劣らず働かうではござりませぬか、初のお詣りに神喜ぶならば理屈をぬきにして傳説を其のまゝの信仰なら大國主の祭は石城郡には極めて少なく大浦村長友の大宮神社、上遠野村大字瀧の國魂神社位のものに角鼠の、

**時刻** では今の夜半の十二時、方角では正北に當るのであります、まことに吉相な年廻りで十二支の第一位に置かれることも左もありそうな謂はれ因縁と存するのでありますが大黒様の打手の小槌に配されたお供餅の傍らに添えて書かれたる繪の、

**福々** 商店の白鼠とか鼠賊、小鼠泥、鼠小僧、鼠鳴き、鼠不入(采戸棚)、進退去就を決し得ない首鼠兩端等々何れも有難くない代名詞に使はれるのは何うした因果か松前屋敷之助に只の鼠であんめいなど、鐵扇で打のめされては腹が立つ窮鼠は猫どころか人まで噛みたくなるでもあらう、鼠に取つて迷惑極極な話はこれに止める、扱て彼れの一族には、

**家鼠** 野鼠、娛樂用の鼠、モルモット、親類だと云へたくなからう泥鼠その他専門家に問へば多種多様であらうが通じて手足の働きに鋭く特長のある耳と鼻と齒、鼠算と云はれる程に殖する仔、懶功で忍耐のある立ち廻りが子寶にも増して福の神になぞらへられたものが大黒



**謹賀新禧**

入山探炭株式会社  
坑業所長 吉田宗雄  
石城郡湯本町

磐城炭鑛株式会社  
鑛業所  
石城郡内郷村

古河炭鑛鑛業所  
石城郡好間村

石城郡町村長會

石城郡學校長會

片倉製糸平工場  
電話八一・八二番

土木建築 渡邊長作  
福島縣湯本町 電話四〇番

**取所** 是小柄で敏捷な動作と子福者而して辛棒の強さがある、此の三拍子共々日本民族に似た所が多い様であります、子年を迎へての本年の私共は鼠に劣らず働かうではござりませぬか、初のお詣りに神喜ぶならば理屈をぬきにして傳説を其のまゝの信仰なら大國主の祭は石城郡には極めて少なく大浦村長友の大宮神社、上遠野村大字瀧の國魂神社位のものに角鼠の、

平町古鍛冶町 木澤常松  
良品廉賣に

釜屋商店  
優る商略なし

平看護婦會 (電話三〇七)

磐城共濟病院 (電話六四一)

小野晋平 古川傳一  
小名濱町 電話六番 植田町 電話一六番

最新 會津桐材 小松履物店  
流行 自製専門 磐城平町三丁目 電話六七三番

有限責任 平庶民金庫 (電話四九三)

東部電力株式會社 平營業所 (電話七五七)

明雲堂眼科醫院  
平驛前 電話六六九番

常磐線鐵道前 日野運送店

平製氷株式會社 (電話三三八)  
社長 木村清治

平町寫眞師會

常識講座

日刊便シ日即日即  
日刊便シ日即日即  
日刊便シ日即日即  
日刊便シ日即日即  
日刊便シ日即日即  
日刊便シ日即日即  
日刊便シ日即日即  
日刊便シ日即日即  
日刊便シ日即日即  
日刊便シ日即日即

平町五丁目 電話五一八番

磐城建物株式會社

小田炭鑛株式會社  
萩原鑛業部 萩原申八

山崎登  
酒造 白萩支店  
石城郡錦村 消防組頭

伊關房次  
電話三三三番

齊藤泰治  
矢ヶ崎鍊

石城分場

福島縣農事試驗場

金成忠義  
根本莊次郎  
星村鐵  
松和司  
大井國三  
酒井森  
大沼平次郎  
藤沼平次郎  
吉田久雄  
鈴木木  
矢吹大  
山内享  
大河内一  
白土德  
志賀政光

候所

| 平均  | 最高   | 最低   |
|-----|------|------|
| 0.7 | 7.3  | -4.3 |
| 3.4 | 6.8  | -0.5 |
| 3.8 | 10.0 | -1.6 |
| 1.9 | 4.8  | -1.3 |
| 4.1 | 8.7  | -1.1 |
| 4.3 | 9.8  | -1.1 |
| 4.2 | 5.9  | 0.3  |
| 3.7 | 8.7  | -1.0 |
| 4.4 | 9.4  | -0.6 |
| 9.1 | 13.9 | 5.8  |
| 2.5 | 4.1  | 0.8  |
| 3.9 | 9.0  | -0.2 |
| 7.6 | 15.1 | 2.5  |
| 3.9 | 8.8  | 1.1  |
| 3.6 | 8.4  | -0.9 |
| 2.9 | 5.7  | -1.3 |
| 2.8 | 7.2  | -3.4 |
| 3.4 | 8.9  | -1.7 |
| 3.7 | 10.5 | -1.7 |
| 1.5 | 5.7  | -1.2 |
| 3.2 | 9.1  | -2.4 |

平町二丁目 電話三三三番

伊關房次

齊藤泰治  
矢ヶ崎鍊

石城分場

福島縣農事試驗場

候所

| 平均  | 最高   | 最低   |
|-----|------|------|
| 0.7 | 7.3  | -4.3 |
| 3.4 | 6.8  | -0.5 |
| 3.8 | 10.0 | -1.6 |
| 1.9 | 4.8  | -1.3 |
| 4.1 | 8.7  | -1.1 |
| 4.3 | 9.8  | -1.1 |
| 4.2 | 5.9  | 0.3  |
| 3.7 | 8.7  | -1.0 |
| 4.4 | 9.4  | -0.6 |
| 9.1 | 13.9 | 5.8  |
| 2.5 | 4.1  | 0.8  |
| 3.9 | 9.0  | -0.2 |
| 7.6 | 15.1 | 2.5  |
| 3.9 | 8.8  | 1.1  |
| 3.6 | 8.4  | -0.9 |
| 2.9 | 5.7  | -1.3 |
| 2.8 | 7.2  | -3.4 |
| 3.4 | 8.9  | -1.7 |
| 3.7 | 10.5 | -1.7 |
| 1.5 | 5.7  | -1.2 |
| 3.2 | 9.1  | -2.4 |

謹賀新年

一月元旦

金成忠義  
根本莊次郎  
星村鐵  
松和司  
大井國三  
酒井森  
大沼平次郎  
藤沼平次郎  
吉田久雄  
鈴木木  
矢吹大  
山内享  
大河内一  
白土德  
志賀政光